

平成三十一年度置賜文化ホール自主事業

平成三十一年度

山形県能楽の祭典

【能楽とは】

ユネスコ世界無形遺産に登録された能楽は、中国伝来の「散楽」が芝居的要素を強めた「猿楽」となり、室町時代に世阿弥によつて歌舞伎的要素を加えた「能」と、芝居的要素を残した「狂言」として完成しました。能・狂言を含めて能楽と言います。

【山形県能楽の祭典とは】

山形県では観世・宝生・金剛・喜多の四つの流派と、和泉流などの狂言の会が活動しています。県内の能楽愛好者が一堂に会し能の見どころを二十分程度の様々な上演形式で披露します。また、伝国の杜子ども狂言クラブも出演します。

9/9(日)

入場無料

9:30 開場

10:00 始曲

16:30 終演予定

会場 伝国の杜 置賜文化ホール

山形県米沢市丸の内 1-2-1

電話 : 0238-26-2666

東北中央自動車道米沢中央 IC から約 4 キロ

主催 : (公財) 米沢上杉文化振興財団 協力 : 山形県能楽協会

山形県能楽の祭典 主な上演形式

※写真は昨年度の能楽の祭典より。

※番組=プログラムのこと



仕舞 (しまい)

シテ (主人公のこと) が面をつけずに袴姿で舞い、後ろには舞の部分の謡 (うたい: 伴奏のこと) として「地謡 (じうたい)」が並びます。物語の内容によって、シテは男性・女性・神様などを演じ分け、役柄の性格や感情を舞で表現します。また、扇を持って舞う基本的な型の他、杖や薙刀を使用する役柄もあります。

今年度の番組から…「海人 (あま)」10:45 頃

龍に奪われた宝を、海人が海に潜り命をかけて取り戻す様子を舞います。

連吟 (れんぎん)

能の台本を謡本 (うたいぼん) と言いますが、それを大勢で謡うのが連吟です。前列に座っているのが登場人物のセリフの部分の謡う担当で、後列があらすじを謡う地謡です。昔の言葉が朗々と響くので喉が重くなってきましたが、能の音楽は脳にとっても良くリラックスできる効果があると言われています。

今年度の番組から…「狸々 (しょうじょう)」10:20 頃

狸々という酒の精霊が、酒売りの青年と酒を酌み交わして舞を舞い、親孝行の褒美で酒壺を与えるというおめでたい内容の曲です。



舞囃子 (まいばやし)

仕舞に楽器を加えたものが舞囃子です。舞台の奥に右から笛・小鼓 (こつづみ)・大鼓 (おおつづみ)・太鼓と一人ずつ並んで舞と謡に合わせて演奏します (太鼓が入らない番組もあります)。雛飾りの五人囃子の人形は、4つの楽器に1人の謡で構成されています。

今年度の番組から…「櫻川 (さくらがわ)」14:55 頃

こどもを失い狂女となった主人公が、別れたこどもを想い、会いたい気持ちを舞で表します。(太鼓は入りません。)

こども狂言 (きょうげん)

主に2~3人の登場人物による現代でいうコントのような芸能が狂言です。使用人が主人をやり込めたり、逆に失敗したりするなどの内容がほとんど思わず笑ってしまいます。

“地元の子供達に伝統芸能に親しんでもらいたい”という思いから立ち上げたのが伝国の杜こども狂言クラブです。現在は年長から高校生までの10名が狂言師の指導のもと、3月の発表会に向け稽古に励んでいます。今回は狂言の他に、狂言の所作を練習するための小舞 (こまい) も披露します。

クラブでは、お稽古の見学や体験など随時受付けております。伝国の杜までお気軽にお問合せください。

今年度の番組から…「盆山 (ぼんさん)」14:15 頃

近所の収集家の家にある盆山 (盆栽) を盗もうと忍び込んだ男。見つかったので隠れるも顔がばれてしまいます。男をからかおうと収集家は…。のこぎりで切るしぐさや動物の鳴きまねがあり、狂言の面白さがよくわかる演目です。



※出演団体の都合により内容や時間が変わる可能性があります。ご了承ください。